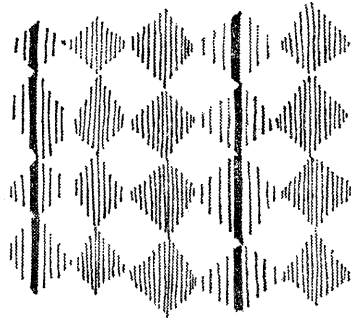


若いお母さんたちへ

ある日のこと

はるにれの会

木村磨理子



十月半ばのよく晴れた土曜。子ども達は急いで昼食をすませると外にとび出していきま
す。長男、小学四年生。「ほく、Hパークハウスに行ってくるね。野球をやるんだよ。」次
男K。小学二年生。「ほくは、N君の家に行ってくるね。」今、夢中になっている牛乳キャ
ップを大事そうにかかえて出ていきました。三男J、幼稚園年長組。「ほくは、ハイッの
T君のところだよ。」四男Y、幼稚園年少組。いつもJの後について遊びにいっ

た。今まででしたら、「Jちゃん、待っててよ。ぼくも行くから」と昼食もそこそこへッソをかきながら、Jについていきましたが、この日は、少し様子がちがっていました。

幼稚園に入って半年たった日のことです。いつものように、Jが先に昼食をすませました。「Yちゃん、まだなの。ぼくは、遊びに行くからね」の声にも、Yはのんびりと食事をしていきます。Jは「早くしてよ。ぼく、先に行くよ」と落ちつかない様子でYをせきたてました。Yは「先に行ってもいいよ。S君の家に行くから」といって、Jが遊びに行くのを見送ったのです。この時のYの表情に自分を中心にした友人関係をもてたことにより、Jの存在なしでも遊べる自信のようなものが見えました。「じゃ、ぼくのお友達のS君のところに行ってきます」といって、一人で出かけていきました。「ぼくの」と言う時に、ニコッと笑ったのです。子どもの成長をまのあたりにして、とてもうれしく思いました。

我が家は、千葉県松戸市横須賀にあります。お隣りの新松戸地区には十四階立のマンションが数多くあり都市化されていますが、家の周りは、空地や畑があります。この地に家を建てて三年になりますが、一戸建住宅がまだ少ないため、近所では、息子達と同年代の友達と遊ぶ機会がありませんでした。子ども達は、新しい集団生活の場で友達をつくり、近くのマンションの子どもと遊ぶようになりました。Aが友達と遊ぶ時はKがついていきました。Kが友達をみつけるとJと一緒に行きました。Jが幼稚園に入ると、いつもYと一緒に遊びについていくのが常でした。この日のように、四人の子ども達が、別々の遊びの世界をもったのは、はじめてのことだったので。子ども達が外へ出ていったあと、家

の中が静まりかえっています。庭では、小鳥のさえずりも聞こえてきます。

長男が一才五ヶ月の時に次男が生まれ、その後二年毎に三男、四男が生まれました。今になって思うと、もう少し心にゆとりをもっていればよかったと反省することの多い毎日でした。一日の生活の時間の流れに追われ、子ども達を「早くしましよ」と追いたてることが多く、また「ちょっと待ってね」と言って、子どもの気持ちに応えることを後回しにして用事をしていたこともありました。今日こそ楽しい一日にしたいと試行錯誤の毎日だったように思います。

「ただいま」の元気な声。外では、様々なことに出合ったことでしょう。どの子も満足気な顔をしていました。四男Yは「ぼく、ちゃんとチャイムを聞いて帰ってきたよ。」と得意気に話します。自信というものは実に表情を生き生きとさせるものだと感じさせられました。

その日の夜のこと。次男K。絵や工作が好きで、いつもいねいに取り組む子です。夕食後、変身ロボットのぬりかえをはじめました。夢中になっているところへ長男Aがやってきました。「おい、そこは青だよ、表紙をみてごらん。」と言いながら、Kのそばでじっと見ています。自分もぬりたい様子で暫く見ていましたが、Kは色をかえずにぬっています。Aは「それは違うよ。上手にぬってあげるから、かしてよ。」Kは「いいんだ。僕の決めた色なんだから。」と言ってAの体を押ししました。Aも「何をするんだ。せっかく教えているのに。」とKをこづきまします。子ども達は互いに押し返すことの繰り返しから、けんかに

なつてしまいました。そばで兄達のやりとりを見ていたJとYが、これに加わりました。Jは「僕はKの仲間だ。」Yは「僕はAの仲間だぞ。」とそれぞれ仲間の一員として宣言をしてポーズをとりました。「けんかに加勢する」というより「遊びに参加する」という感じです。長男Aと四男Y、次男Kと三男Jのグループに分かれました。最近、KとJは物の取り合いなど小さなことで気の合わない面が目立っていたので、私にとっては、予想外の組み合わせでした。AとKは本気で取っ組みあいをしています。JとYはまるでダンスのようでけんかのポーズを楽しんでいるように見えました。しかし、JがAを蹴ったことからAが怒り、AとJの葛藤が生まれました。Aの力がJに向いたのでKがYの方に近づいた途端、Yは「ワンワン。」と犬の真似をして逃げ出したのです。Yは力ではいつも負けているので、動物に変身して身を守ろうとした様子でした。A「何をやっているのだから、Yちゃんは。」Kが「犬のつもりだよ、変なの。」と言うと、Yは「ワンワン。」とうなづきましました。するとJもニコニコしながら「ワンワン。」と犬の真似をしてYの後をついて歩き出しました。AとKは、四つ這いになって動き回る弟たちを見てともに笑い出したのです。AとKのお互いに反発する心がすつと消えていました。Kは「Aちゃん、少しぬってもいいよ」と譲歩し、Aも「ありがとう」と言つて二人でぬりえを始めました。JとYは、今度は馬になったり、うさぎになったりして動物の真似ごっこへと遊びが変化していきました。私は、けんかをしている子らにどう言葉かけをしようかと考えているうちに、思いもかけない展開があり、子どものやりとりを辛抱強くみることも大切なことだと痛感しました。

我が家では、四人兄弟の年齢が近いせいか物の取りあいや順番でぶつかる場面が日に何度もあります。子ども一人一人が自己主張をした時に、その気持ちをどう受けとめて対処していくかは、非常に難しいことですが、子どもとのふれ合いを大切にして日々を過ごしたいと思うこの頃です。子ども達の寝顔をみていると、「明日こそ、子ども達とゆっくりつきあってみよう。子どもの心の世界と一緒に遊んでみよう」という気持ちがわいてきます。四人の子がそれぞれに私を必要としているのだから……。

明日、天気になあれ。

お詫びと訂正

十二月号

P 10

嘘↓虚

P 35

持ししめす↓指ししめす

P 38

幼児の教育二号↓八四卷二号

一月号

P 42

水柱↓氷柱

P 45

志し↓た↓志し